令和５年度機構評議会指摘事項への対応状況

○施設

（１）インフラの老朽化について機構で計画的な更新や計画を持っているか。地方の林業系研究機関などからの情報はあるか？

（対応状況）

森林総合研究所においては建物や設備が老朽化している中にあって、その維持に苦慮しているところもあるが、施設整備に関する計画を策定して必要性・緊急性を考慮しながら整備に努めている。令和５年度は林木育種センターの原種増産施設等の、令和６年度は研究本館の空調設備の整備を、それぞれ進めているところである。また、毎年度行っているブロック会議で地方の情報の収集に努めており、都道府県の施設についても同様に老朽化は進んでいる中にあって、地方財政は厳しい状況にあり更新のための予算確保は困難で、試験施設の整備に活用可能な国の助成制度の創設を要望する声が上がっていると聞き及んでいる。

○広報

（２）機構で発行している冊子は読みやすくて分かりやすい。小学生向けタブレットなどにアプリとして入っていたら、子供の頃からこういう情報に触れられる。アプリ等との連携は面白いのではないか。

（対応状況）

時代に合わせた広報手段の選択は大切であり、これまでもウェブサイトから始まり、Facebook、X(旧ツイッター）、YouTube と広報の場を広げてきた。これからも時代のニーズを注視しながら、効果的・効率的な広報活動を心がけたい。

子供たちに向けた情報発信としては、季刊森林総研の学校への配布の拡充とともに、YouTube 森林総研チャンネルにおいてキッズ向けの動画コンテンツ（すでにあるコンテンツから小中学生でも分かりやすいもの）をまとめたコーナーの開設を検討している。

子供向けのアプリについても検討したが、セキュリティの確保と管理を含めた維持・運用のコストと、子供向けの内容にリライトする人材の確保あるいは外注コストなどの課題があることが分かり実現には至っていない。

○一般管理費

（３）光熱費等の高騰などに関して、国立科学博物館のようにクラウドファンディングなどはどうか。所内施設を案内するなど支援のお礼もあると満足していただけるのではないか。

（対応状況）

森林総合研究所における光熱費等については、省エネ対策の徹底により使用量の抑制を図るとともに、運営費交付金での予算の確保や外部資金等の獲得により、必要額が確保できるものと見込んでいる。

なお、クラウドファンディングについては、プロジェクト資金の獲得のみならず、森林総合研究所の PR にも貢献することから、具体的なプロジェクトの検討を行ったものの、現時点では事務的負担が大きく安易に行うことはできないと判断している。なお、規程類や実施体制についても検討を行ったところであり、今後、クラウドファンディングが活用できる案件があれば実施を検討してまいりたい。

○研究課題の設定

（４）花粉症対策のことで、ヒノキの花粉症の方もいる。注目がスギにばかりいってしまっている。無花粉ヒノキの研究についても育種センターがもっと発信しても良いと思う。

（対応状況）

少花粉ヒノキについては、エリートツリーの中に基準を満たす系統がないか、都道府県と連携しつつ調査を進めているところである。また、無花粉ヒノキについては、都道府県と連携し、無花粉ヒノキ（雌花は正常なもの）の探索等の調査・研究を進めているところである。さらに、ゲノム編集技術を活用した無花粉ヒノキの作出に向けた研究の取り組みも進めているところであり、成果が得られれば積極的に発信していきたい。

○研究課題の設定

（５）長期戦略にはどういうことがあるのか。それと関係して、研究のキーワードで気候変動がまた大きくなってきたことに関して、最初は温室効果ガスの吸収が主なテーマだったが、今の課題は何か。

（対応状況）

今の課題として気候変動「適応策」の重要度が増している。それに関して、国内林業に加え、ベトナムやペルーの森林を対象に外部資金で研究を進めている。「緩和策」も引き続き重要であり、注目されるメタン吸収や伐採木材を含めた森林全体の温室効果ガス吸収量に関して外部資金や交付金プロジェクトで研究を進めている。気候変動対策と生物多様性の関係性はシナジーとトレードオフの検討が重要課題で、外部資金で研究を進めており、国際誌や広報誌での成果発信を通じて、橋渡しに努めている。

○森林保険業務

（６）今後は気候変動で火災も風害も雪害も必ず増えていくだろうと思う。そういう意味でも保険自体に注目が集まるといいと思う。

（対応状況）

森林保険センターでは、森林保険の普及・加入促進に係る取組を着実に推進するための活動計画を策定し、造林補助事業実施箇所の新規加入や、既契約者への継続加入、森林経営管理制度における森林保険の活用等を働きかけるとともに、森林保険の重要性等をウェブサイト、Facebook、広報誌等を通じて積極的に発信し、国民各層の認知度向上及び理解の醸成等を行っている。なお、令和５年度からは、新たに作成したキャラクターを積極的に活用した普及・加入促進活動を展開している。